

ナノテク・ものづくり②

ナノ学会

5月7〜9日に第6回

大会を九州大で開催

ニューフロンティア研究に注目



実行委員長の九州大・辻正治教授(右)と
ナノ学会副会長の東北大・川添良幸教授

ナノ学会(会長|理化学
研究所 茅幸二氏)は、第
六回大会を五月七日(水)

センター、JSTイノベ
ションプラザ福岡など。
今回で六回目を迎える同
年記念講堂

イオチップなど幅広い分野
のナノテク最先端研究が多
数発表される。今回はその
中でも、口頭発表や若手に
よる発表がさらに充実して
いるのが目玉となってい
る。

来ナノ学会会員に限定され
ていた代表発表者を、学生
に限り非会員でも講演申し
込みを行えば会員として
資格を与え発表可能とし
た。この措置により、投稿
された一般論文総数は前回
(つくば大会)を上回る一
八四件にのぼり、その中
の一七一件は三五歳以下の若
手研究者の投稿となった。
さらに今回は、同学会の
活性化、発展を目指して口
頭発表の機会を大幅に増や
しており、口頭発表希望の
五二件のうち実に約八〇%
の四二件が各関連セッショ
ンにおいて口頭発表され
る。その中の四二%にあつ

福岡県、福
岡市、九州
大学、福岡
理学部、福岡
ナノテク推進
会議、福岡
県産業・科
学技術振興
財団、福岡
県工業技術

今回のメインテーマは
「ナノテクニューフロンテ
ィア―基礎からバイオ応用
まで」。ナノテク研究に
おける基礎と応用を結ぶ分
野横断的な情報・意見交換
を促進し、我が国における
ナノ研究の新たなパラダイ
ムの創設を狙って掲げられ
ている。

具体的プログラム内容
は、最近のナノサイエンス
・ナノテクノロジーの進展
にドライブされたニューフ
ロンティア研究に光を当て
ている。
基調講演では、ナノテク
の各分野において我が国を
リードしているキーパース
ンによる講演が行われる。
このほど平成二〇年度日本
学士院賞・恩賜賞を受賞し
た諸熊幸治教授(京都大学)
による「炭素ナノ構造の生
成と応用の理論的研究」を
はじめ、ナノ微粒子の合成
と応用の分野で知られる戸
嶋直樹教授(山口東京理科
大学)による「金属ナノ粒

子の応用」、有機LEDバイ
ス分野での第一人者として知
られる安達千波矢教授(九
州大学)による「有機LED
バイスの新展開」、有機レ
ザーダイオード、有機LED無
機ハイブリッドLEDバイスの
創製」、ナノバイオ分野
の第一人者として知られる
片岡一則教授(東京大学)
による「ナノバイオ・イン
テグレーションが拓く未来
医療」が行われる。基調講
演以外でも関連分野の若手
研究者による招待講演が
行われる。

また、次世代のナノテク
を担う若手研究者に発表の
機会を多く与えるため、従

る一七件は三五歳以下の若
手研究者の発表となるとい
う。
今大会の実行委員長を務
める九州大学 先端物質化
学研究所の辻正治教授は、
「ナノ科学の発展には異分
野間の学際的な連携が不可
欠だ。その連携を促進する
ため、今回も学会会場での
質問以外に、ローリーや懇親
会での新たな交流の場を提
供したい」としている。
同学会に関する問い合わせ、申し込みは、事務局(ア
カデミック・スクエア)内
☎〇七五 四六八 八七七
二)まで。